

事務DX化の先にある新たな可能性 -三重大学モデル-

地域を見つめ、
三重から世界へ

三重大学 財務部財務管理チーム
調達室長 平山 亮



01. Who am I ? (自己紹介)



01. Who am I ? (自己紹介)



02. 三重大大学の事務DX体制について



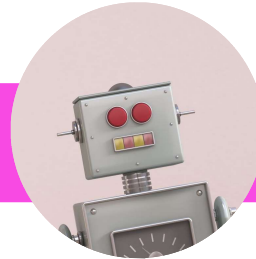
01. Who am I ? (自己紹介)



02. 三重大学の事務DX体制について



03. RPAによる事務DX化事例



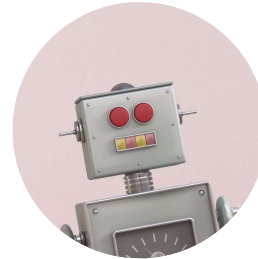
01. Who am I ? (自己紹介)



02. 三重大学の事務DX体制について



03. RPAによる事務DX化事例



04. 事務DX化によって生まれた新たなDX



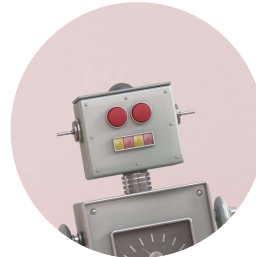
01. Who am I ? (自己紹介)



02. 三重大学の事務DX体制について



03. RPAによる事務DX化事例



04. 事務DX化によって生まれた新たなDX



05. 事務DX化の学外発信と波及効果



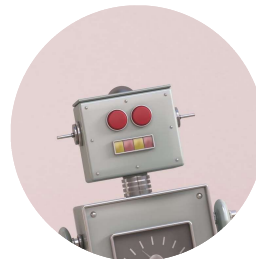
01. Who am I ? (自己紹介)



02. 三重大学の事務DX体制について



03. RPAによる事務DX化事例



04. 事務DX化によって生まれた新たなDX



05. 事務DX化の学外発信と波及効果



06. 事務DXの先にある新たな可能性 -三重大学モデル-



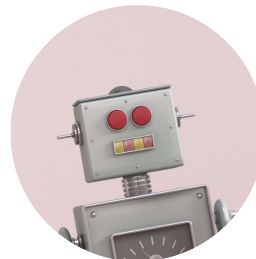
01. Who am I ? (自己紹介)



02. 三重大学の事務DX体制について



03. RPAによる事務DX化事例



04. 事務DX化によって生まれた新たなDX



05. 事務DX化の学外発信と波及効果



06. 事務DXの先にある新たな可能性 -三重大学モデル-

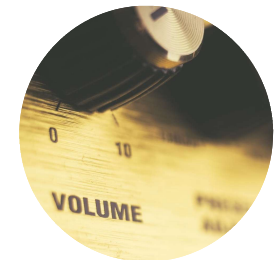
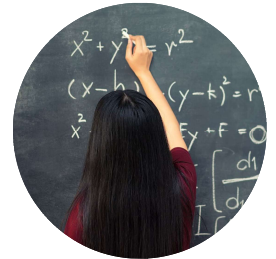
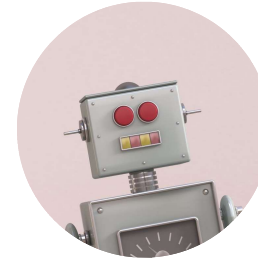


07. まとめと個人的な思い



01.

Who am I ?



国立大学法人三重大学 財務部財務管理チーム調達室
室長 兼 業務運営DX作業部会 エキスパート部会員

RYO HIRAYAMA

既婚、3人の子持ちの42歳
趣味はサッカーとカラオケです

略歴

- ▶ 前職では資産運用関係企業で営業
- ▶ 平成17年8月より三重大学勤務
- ▶ 令和5年7月より現職（調達室長）

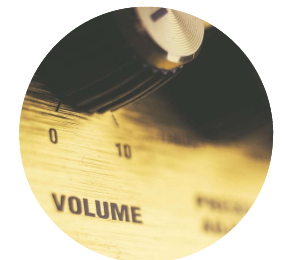
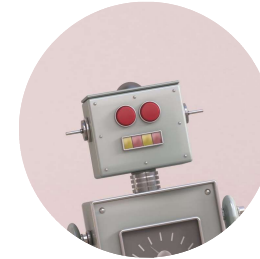
ここからずっと
会計業務に
携わってます

DXに関する業務にも従事

- ▶ 令和元年にRPAを構築
- ▶ 令和3年3月よりRPA推進室員兼務
- ▶ 令和4年4月より業務運営DX作業部会
エキスパート部会員として活動

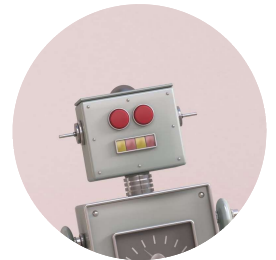
三重大学定例記者発表時の様子

AGENDA



02.

三重大学の事務DX体制について



三重大大学における事務DX化の変遷

ステージレベルと概要

主な取組

1st ステージ

企画・検証・先行

- 製品の検討
- 自動化の実現性の検証
- モデル事例の構築



- ✓ 企画総務部職員による現場職員へのレクチャー及び説明会実施
- ✓ 他機関との情報共有
- ✓ 業務削減効果の高い内容を重点事項として開発（約2,000時間削減の可能性）
- ✓ 身近な内容への適用

2nd ステージ

安定運用・組織化

- システム稼働
- 引き継ぎ安定運用の整備
- 組織体制の構築
- モデル事例の展開
- 製品の最適化検証



- ✓ 企画部門と情報部門が協働し、全学としてRPA推進室を設置→後に業務運営DX作業部会へ
- ✓ デジタルツール活用推進（全学的活用展開）→後に業務運営DX作業部会へ
- ✓ 現場引き継ぎ・定着施策実施と実運用（約2,000時間削減済）
- ✓ 他機関との情報交換体制構築
- ✓ 業務に応じたツールの選択

現在

3rd ステージ

強化・制度化

- 水平展開
（同種業務の他部署への適用）
- 垂直展開
（同一業務の適用範囲拡大）
- ガバナンス体制の強化
- 業務に応じた最適化の定着



- ✓ 好事例の共有・構築支援による全学的なRPA適用範囲拡大
- ✓ 構築済RPAのパーツ共通化を通じた水平展開拡大
- ✓ DX人材の拡大による全学的な業務改善の推進
- ✓ 業務に応じたツール選定ポイントの理解度向上
- ✓ 他大学事例を参考としたガバナンス体制（ガイドライン・コーディング規則等）の強化

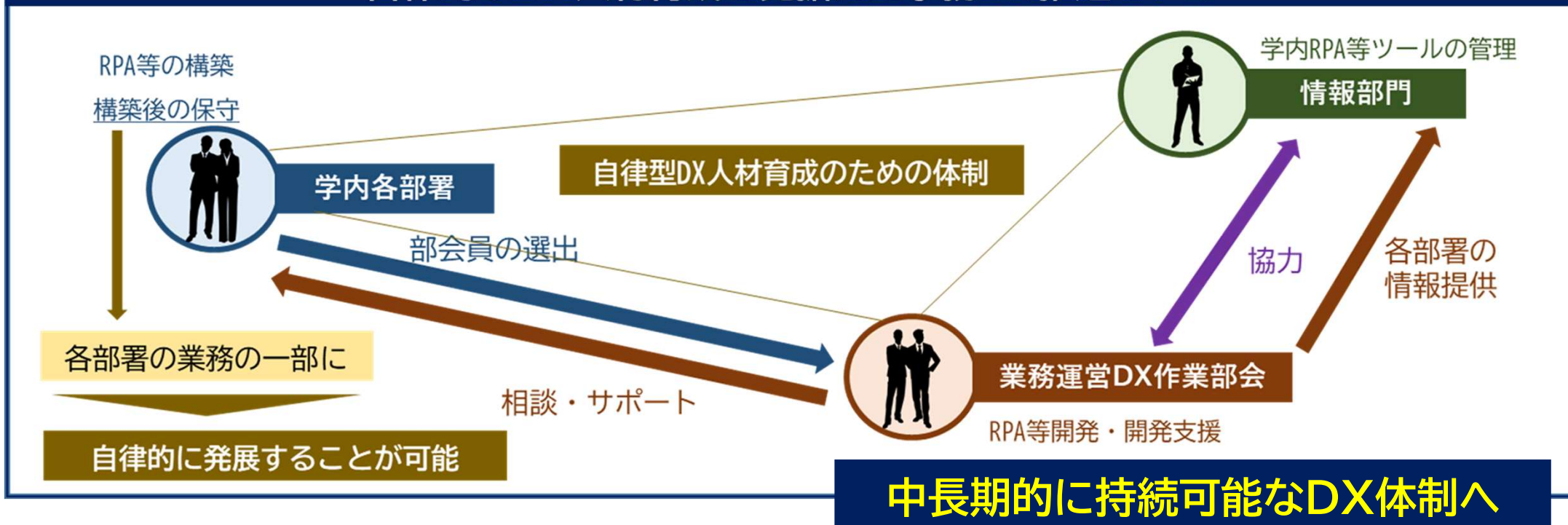
自律的なDX人材育成を見据えた事務DX推進モデル

- ✓ RPAを含めたDXは“**属人化**”してしまう傾向がある
- ✓ 専門的な部会はサポートに留め、各部署が各部署でDXによる課題解決を図り、業務として同じ部署で次の者に引き継ぐ体制を取ることで**DXに対する裾野が広がり**、各部署が**自律的に発展**することを目指す

脱・属人化

自律型DX人材の育成

自律的なDX人材育成を見据えた事務DX推進モデル



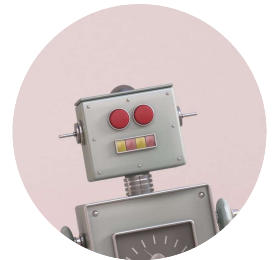
業務運営DX作業部会の活動

- ✓ 各課・チームから1名以上を選出、業務改善に積極的な者を充てる
- ✓ 部会の中で支援部を構成し、エキスパート部会員、情報基盤センター技術員、DX・情報チーム職員をもって、全体を俯瞰した助言・支援・調整を行う
- ✓ 少数精鋭で「個人」主体だったRPA推進室とは違い、各部署が主となって構築・保守することで「組織」で教育・支援を行う多人数方式へ

業務運営DX作業部会の一年

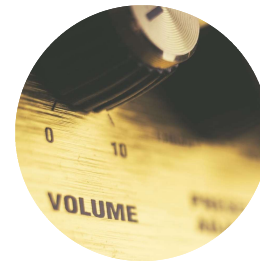
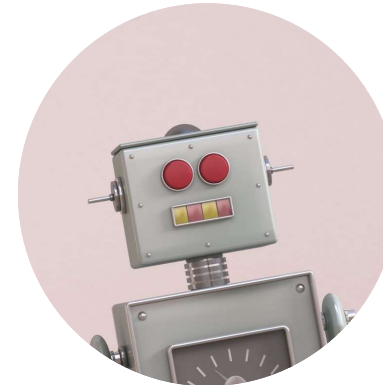


AGENDA



03.

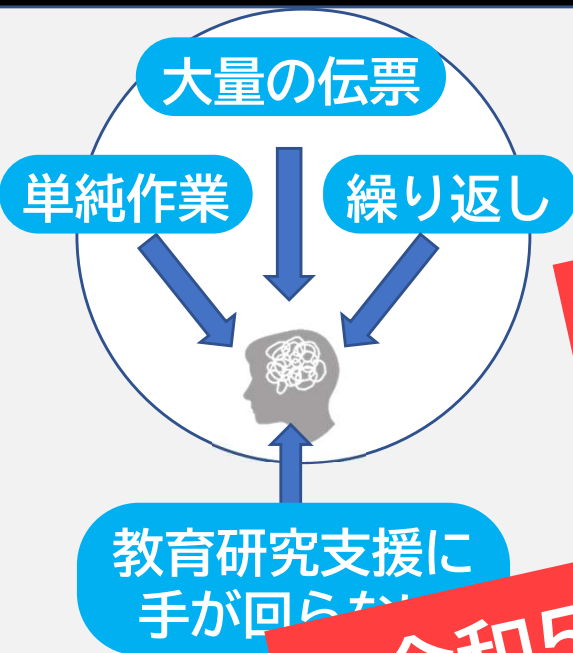
RPAによる事務DX化事例



支払伝票作成フロー(株式会社ニッセイコム製 財務会計システム)



課題



長年調達担当を悩ませていた課題はRPAで解決できるものと判断

RPA適用前

支払伝票処理

RPA適用後

支出契約決議書作成 (入力)

議書作成 (入力)

大量の伝票
単純作業
繰り返し

令和5年度RPA適用伝票 46,000件以上

Excel "連続" 入力 (フロー変更)

支出契約決議書出力 (印刷)

RPA起動 (以下作業自動化)

支出契約決議書出力 (印刷)

支出契約決議書出力 (印刷)

支出契約決議書出力 (印刷)

支出契約決議書確定

令和5年度業務削減時間 2,300時間以上

債務計上票作成 (入力)

債務計上票作成 (入力)

債務計上票出力 (印刷・決裁)

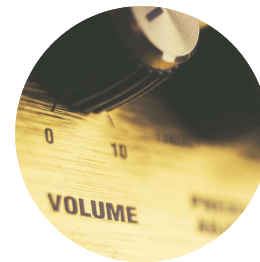
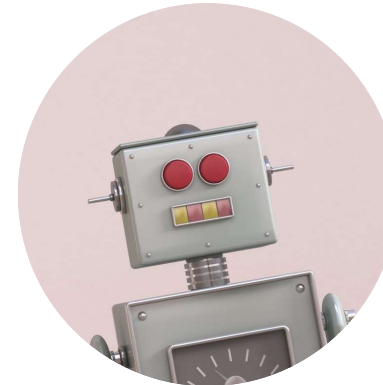
債務計上票出力 (印刷)



ヒトは作業なし

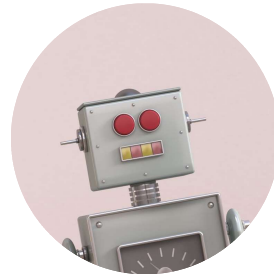
事前にExcelに必要事項を "連続" 入力することでシステムへの "1件ずつ" 伝票を開いての入力はRPAが行ってくれる

AGENDA



04.

事務DX化によって生まれた新たなDX



事務の最終目標を目指して = 教育研究支援

事務業務効率化

≠

教育研究支援

教育研究現場の 事務業務効率化

教育研究現場の事務業務軽減
→ 教育研究時間の増

教育研究成果の
アップへ

…事務DX化による効率化で生まれた業務のスキマで企画・立案、実行!!

モノを買った時にイチイチ、
システム入力したくないっ!!



調達室担当者

では、モノを買っただけで自動で伝票が
出来上がるシステムを内製しましょう!!

本学で導入している
Amazonビジネスから
自動化してみることに

目指せ、事務作業の大幅な削減!!

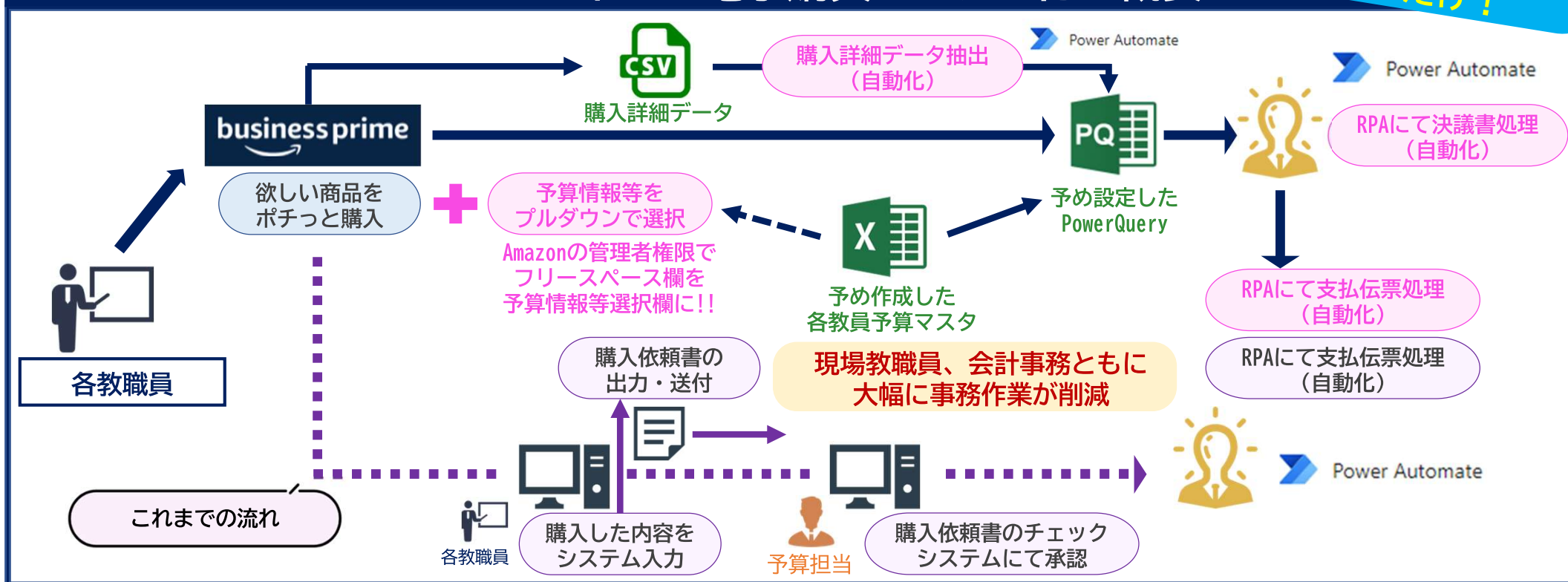
Amazonビジネスの電子購買システム化を実現

購入依頼書7,200枚以上削減！
作業時間600時間以上削減！

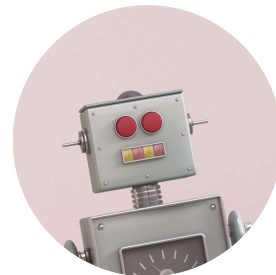
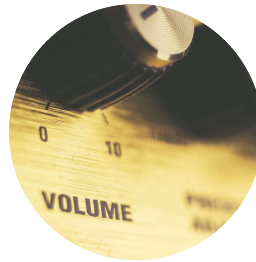
- ✓ Amazonビジネスは本来Webにて購入後、購入内容について財務会計システムへ入力する必要があった
- ✓ Amazonビジネスにある機能とデジタルツールを活用し、電子購買システム化を内製にて実現

Amazonビジネスの電子購買システム化の概要

Amazonビジネスで
ポチるだけ！

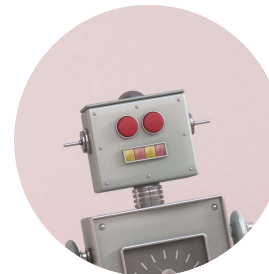
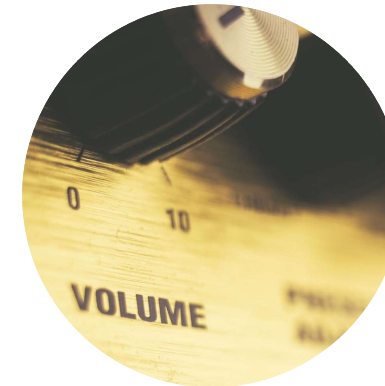


AGENDA



05.

事務DX化の学外発信と波及効果



これまでの学外発信及び全国への波及効果

- ✓ 令和3年度に国立情報学研究所（NII）主催の「大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム」にて登壇、**高い評価を得て、全国から視察等の依頼が殺到**



- ✓ 他大学の視察受入・情報交換については、令和3年度から令和5年度にかけて複数の国立大学法人の他、県立大学や市役所、企業など**42件の視察受入・情報交換を実施**
- ✓ 令和4年度にはRPAの講演会の依頼を受け、福井大学及び鈴鹿工業高等専門学校で本学の取組について**講演会を実施**
- ✓ 令和4年度にはアマゾンジャパン主催の「活用共有会 JAB-DAI」にて登壇、令和5年度には同じくアマゾンジャパン主催の「Amazon Business Exchange 2023」にて登壇し、RPAでの伝票作成業務自動化を説明
Amazon Business Exchange での登壇は**国立大学法人初の登壇**となった

視察依頼
講演依頼

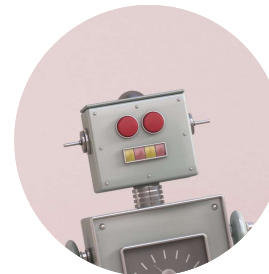
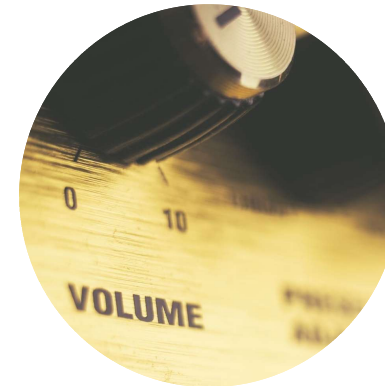


全国的には
内製構築に難色



三重大学のノウハウ
内製した業務効率化フローを他機関へ

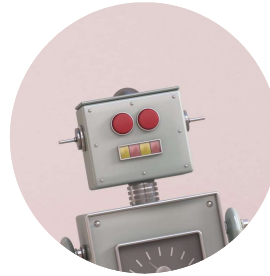
AGENDA



06.

事務DXの先にある新たな可能性

- 三重大学モデル -



POINT . RPAフローのパッケージ化による、**事務部門から価値を創出**

三重大学モデル

●業務効率化の成果物であるRPAフローをパッケージ化 → 事務部門が生み出す新たなビジネスモデルに

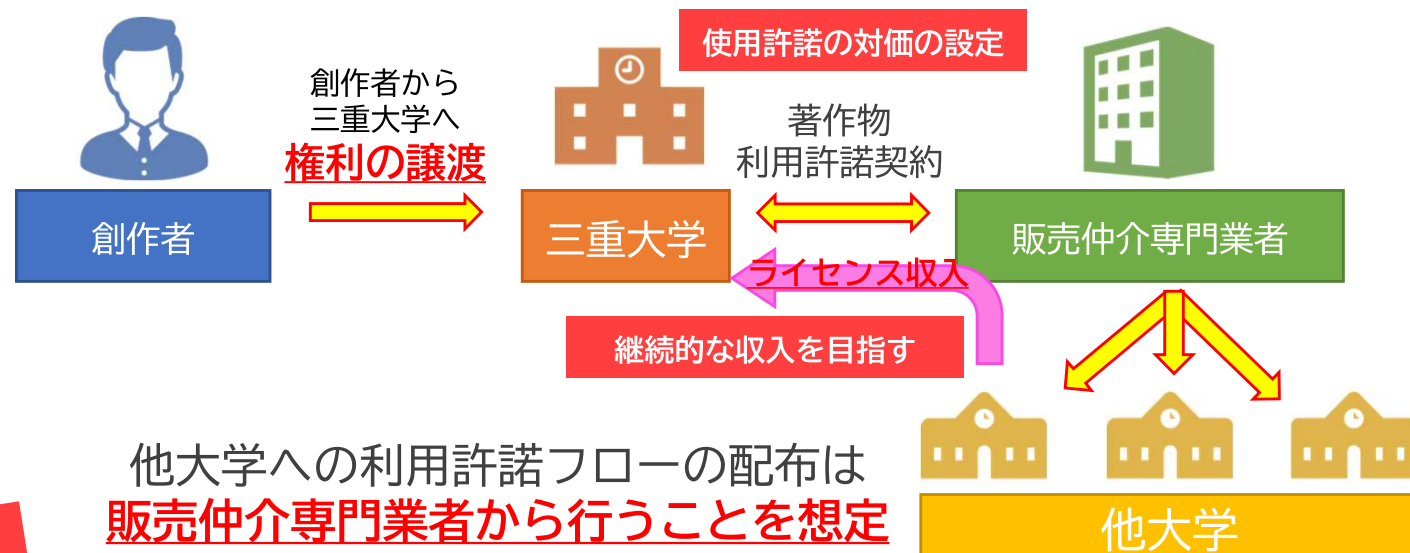


パッケージ化

全国から視察が殺到している
伝票作成自動化フローは
2/29の知的財産評価委員会にて
大学に帰属されたことが承認

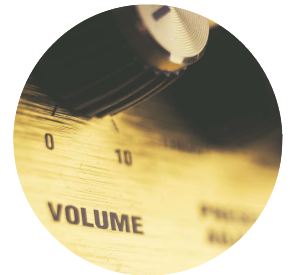
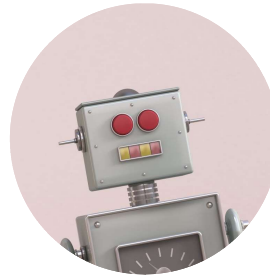
新たな価値創出の第一弾

フローをパッケージ化することでビジネスモデルを創出し、収益を獲得する



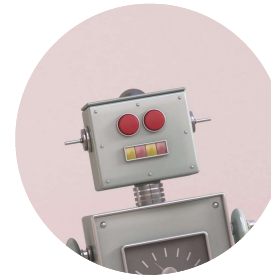
- ・ 権利化により、大学のコストセンターとしての認識である**事務部門の活動が収益を生み出す**という発想転換。
- ・ 業務効率化で生まれた事務システムとの隙間を埋める業務モデルをパッケージとして販売し収益化。
- ・ DXを低コストにより大学現場にフィットしたものとして広めていく活動としても有益。

AGENDA



07.

まとめ



1. **事務DX体制**
如何に” 属人化” させずに各部署で**自律的に構築・保守**を行えるか
過度なサポートは**禁物**であり、あくまで各部署の課題を各部署で解決させる = **自律型DX人材**の育成へ
2. **事務DX化の次へ**
教員等が**教育・研究に専念**できるように
大学にとって**真に必要な事務DX化**は**教員等の事務作業のDX化**
これが出来るのは、**我々事務職員**しかいない
3. **事務の新たな可能性**
事務が業務効率化として生み出した**成果物の活用**
本来はコストセンターである**事務部門の新たなステージ**
業務効率化のノウハウの全国展開、
そして**全国立大学法人等での事務DX活性化へ**

これからの三重大学について(個人的な思い)



みんなで繋ごう

事務DXの輪

現在、本学では自律型DX人材の発掘、育成を進めています！
その中で、事務DX化のアイディアと教員等の事務作業DX化のアイディアが蓄積されています。
この三重大学事務DXシーズを余すことなく全国展開していきたいと考えています。
ぜひ、御興味のある機関の方は御連絡お待ちしております！

THANKS

MIE Univ

New Business Model from Mie University

地域を見つめ、
三重から世界へ

ご清聴いただき、
ありがとうございました。

New Business Model from Mie University

地域を見つめ、
三重から世界へ

ご清聴いただき、
ありがとうございました。